

外国語－１（第１学年） スピーチの概要や要点を聞き取る事例
【学習活動の概要】

1 単元名 「Unit 6 グリーン家の人々 / Listening Plus 2 友達のプロフィール」		
2 単元の目標		
<ul style="list-style-type: none"> ○理解できないところがあっても、推測したり、聞き返したりして聞き続ける。 ○三人称単数現在形を用いて家族や友だちのことを紹介する。 ○友人や教師を紹介するスピーチを聞いて、内容を正しく理解する。 ○三人称単数現在形の形・意味・用法を理解する。 		
3 評価規準		
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】		
・理解できないところがあっても、推測したり、聞き返したりして聞き続けている。		
【外国語表現の能力】		
・三人称単数現在形を用いて家族や友だちのことを紹介することができる。		
【外国語理解の能力】		
・友人や教師を紹介するスピーチを聞いて、内容を正しく理解することができる。		
【言語や文化についての知識・理解】		
・三人称単数現在形の形・意味・用法を理解している。		
4 教材		
<p>本単元は、カナダ人のグリーン先生との交流を通して、日本とカナダの文化・生活習慣などにも関心を持ち、「国際語」としての英語の役割に気付かせる内容である。言語材料として三人称単数現在形を扱うことから、クイズ形式で発表された家族や友人の人物紹介文を聞き取ることを中心とした言語活動を通して、まとまった内容の概要や要点を聞き取る力を養う。</p>		
5 主な学習活動		
(1) 単元の展開（全 8 時間）		
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
第一次 (1)	<u>Unit 6 グリーン家の人々</u> Multi Plus 1 で作成した自己紹介文のスピーチを毎授業 5 人ずつ発表し聞き取る。	・発表する前には自然な口調で発表できるように練習する時間を確保する。
第二次 (3)	<u>まとめと練習</u> 自己紹介スピーチで聞き取った内容を記したメモを基に、人物紹介文を作成する。	・紹介するポイントを明示し、まとまりのある文章を書けるように支援する。
第三次 (3) 本時	<u>Listening Plus 2 友達のプロフィール</u> クイズ形式で発表された人物紹介文をワークシートを手掛かりに聞き取り、誰の紹介か推測する。	・自然な口調の英語を聞けるように、出題者は事前に発表内容を十分に練習するようにさせる。
第四次 (1)	<u>単元のまとめ</u> 学習内容の定着度を確認する。	
(2) 本時の学習（6 / 8 時間）		
<p>目標：人物紹介のスピーチを聞き取る。</p> <p>展開：</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教科書にある自己紹介文を聞いて内容を理解する。 ②前時に作成した人物紹介の文をグループ内で相互に発表し、聞き取る。 ③紹介文をグループ内で推敲し、クラス全体で発表する。 		

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

学習指導要領 2 内容 (1) 言語活動 ア 聞くこと (イ) 「自然な口調で話されたり読まれたりする英語を聞いて、情報を正確に聞き取ること。」及び (オ) 「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること。」の指導事項に関わる事例である。

○(イ)に関して

生徒のスピーチや生徒同士の対話活動で話される英語について、生徒自らが自然な口調で話すように努めることで、自然な口調の英語を耳にすることに慣れ親しみ、「聞く力」が高まることが期待できる。

この単元では、練習する時間を十分に確保し、繰り返しその英語に触れる機会を増やすために、Listening Plus 2 に先行して Unit 6 の冒頭から 5 人ずつ自己紹介スピーチをする。発表の順番が示されているので、生徒は授業前に十分な練習を積むことができる。正しい強勢・イントネーション・区切り・適切な速さ等、自然な口調の目安を与えることで、生徒は目標をもって取り組むことができる。スピーチを聞く生徒にとっても、より自然な口調の英語による自己紹介を毎授業で繰り返し聞くことになるため、聞き取る力の向上につながる。

○(オ)に関して

この内容を指導するためには、生徒が内容的にまとまりのある英語を数多く話す場面を設定し、同時に生徒がその英語をじっくりと聞き取り評価する活動につなげることが大切である。そのためには、段階を踏んで計画的に準備を進める必要がある。

この単元では、既習単元で学習した自己紹介の仕方を Multi Plus 1 において生徒が自己表現し、Unit 6 において実際にスピーチを行った。自己紹介で使われる語彙も学習進度に併せて繰り返し学習するので習熟し、多くの生徒が発音や意味を理解することに対する抵抗が少なくなってきた。この「自己紹介」スピーチを Unit 6 冒頭から繰り返して行い、それを聞いている生徒は、話の概要や要点を聞き取るために、発表スピーチから得た情報を記録用紙にメモをとるようにする。全員のスピーチ発表後、そのスピーチの概要や要点をメモした記録用紙を基に、人物紹介のスピーチを作成し、クイズ形式で発表する。生徒は自然な口調で話された紹介文を正確に聞き取り、誰の紹介であるかを予想する。

【言語活動の充実の工夫】

言語活動を充実させるために、以下の3点に留意して授業を展開した。

(1) 「聞く」言語活動を展開するに当たって

「何のために聞くのか」という本活動の目的を生徒に示した。本時の授業では、「人物当てクイズ」で出題者の英文を聞いて、特徴を聞き取り、正答を考える。そのためには、友だちが話す英文を正確に聞き取り、普段接している身近な友だちのことを考え、ヒントとなる事柄（まとまりのある英文）と比べ合わせ、答えを導き出す。聞く目的や聞き取るべき対象が明確になることで、生徒たちは「聞くこと」に集中して取り組めた。

さらに、グループ対抗というゲーム的な要素を活動に取り入れることで、より集中して聞き取ることができた。これは、同じテーマであるために、似通った内容の英文を何度も聞くことになることで生じがちな冗長感を軽減することに役立った。授業後には、「先生、続き、またやろうよ」という声が多く聞かれた。人物紹介というテーマで、一定の量と質の英文を楽しみながら聞き取る活動を繰り返すことによって、まとまりのある英文を聞き取ることに慣れさせることができた。

(2) 聞くための手掛かりを与えるワークシートの作成

聞く活動では、生徒が、何が聞き取れて何が聞き取れていないのかを判断するのは困難である。そこで、聞き取りが苦手な生徒には、聞き取りのポイントを明記したワークシートを作り、聞く上での手掛かりを与えた。本時の授業では、「誕生日」「出身小学校」「趣味」「特技」「その他」と記入された項目欄を作り、聞く時のポイントがわかるようにした。

(3) 協力して学習し、聞く力を高め合う場面の設定

自然な口調で話される英語を聞く場合、そのような英語を聞き慣れていない生徒は、自信をもてない場合が多い。そこで、学級全体での発表の前に、4人グループで友達紹介をして、互いに聞き合う場を設定した。その際、発表が聞き取れない時には、発表の途中であってもスピーチを止めて、聞き取れなかった単語の意味を確認したり、聞き取れなかった部分を繰り返し発表してもらったりして、聞き取りに自信をもてるようになるまで助け合うようにした。その結果、全体の前でのクイズ発表の聞き取りでは、自然な口調の英語であっても戸惑うことが少なくなり、自信をもって聞く活動に取り組むことができた。